

なかしゅんべつ



豊原保育園でスケート教室が開催されました

スケートをはいて、おぼつかない足どりでリンクに立ち、始めはこわごわしながら何度も転びながら、元気に立ち上がっては挑戦する子供たち。

寒い冬に負けずスケートを満喫し、また一つ成長しました。

中春別地域畜産クラスター協議会の設立

1月15日(木)に中春別農協役員会議室にて、中春別地域畜産クラスター協議会の設立総会及び1月22日(木)に臨時総会が開催されました。



協議会設立にあたっては、中春別地域内にある営農支

援組織を活用し、労働力の軽減と生産性の向上を図り、

新規投資による生乳生産増及び後継牛の増頭による生産基盤の拡大、植生改善手法を普及拡大させ良質自給飼料の生産性向上を図り、地域の目標である生乳生産



量を共有し、収益力向上を実現するため中春別地域畜産クラスター協議会を設立いたしました。

設立総会では、議案第1

号協議会規約(案)の承認について、議案第2号役員選出について提出され、全議案可決承認されました。平成26年度役員については左記の通りとなっております。

○会長

中春別農業協同

代表理事組合長 小湊 保

○副会長

中春別農業協同組合

副組合長理事 藤倉 紀夫

○副会長

中春別農業協同組合

理事 西川 寛稔

○監事

別海町役場

産業振興部次長 山崎 茂

○監事

根室農業改良普及センター

地域第一係長 鬼頭 邦典

また、臨時総会では、議案第1号中春別地域畜産クラスター計画(案)及び平成26年収支予算(案)について提出され、全議案可決承認されました。

組合員説明会等でご説明させて頂いていますが、平成27年度より今回設立した中春別地域畜産クラスター協議会におけるクラスター計画の取り組みを中春別地域全体で行うことにより、補助付き関連事業(機械リース・施設整備)が活用できることと



なっております。中春別地域畜産クラスター計画の取り組みについては、中心的な経営体となる組合員の皆様方に取り組んでいただくこととなっておりますので、ご理解、ご協力の程宜しくお願いいたします。

みらい塾で得た知識と経験をいかし、 将来の酪農経営にいかしたい

みらい塾 修了式



緊張した面持ちで修了式に臨む塾生たち

平成26年度みらい塾修了式が1月15日開式されました。

理について学んできました。

関係機関との繋がりを目的とし、根室農業改良普及センター、根釧農業試験場、北海道酪農検定検査協会根室事業所、ジエネティクス北海道道東事業所、根室地区農業共済組合をメインに講師を依頼し、講座や現地研修を行いました。

当日は、お世話になった関係機関の方々がご臨席の中、1年間の講義を終えた5人の修了生は小湊保塾長より修了証書を受け取りました。

修了生は小湊塾長を前に緊張した様子で壇上に上がりましたが、修了証を受け取る際に、塾長から優しい言葉をかけていただき、笑顔で賞状を受け取る事ができました。

その後、小湊塾長から、「講師となっていたいただいた関係機関の皆様には、改めて厚くお礼申し上げます。修了生はみらい塾で得た知識や仲間との絆を大切にして、将来の地域と酪農を支える

人物になつていただきたい」と挨拶をいただきました。

続いて根室農業改良普及センター三浦所長より「修了生の皆様には今後もと人との繋がりを大切にして欲しい、そして若いうちは失敗を恐れずにたくさん挑戦をして様々な経験をしていただきたい。その経験が将来経営者となった時に自分の宝となります」とのお祝いの言葉をいただきました。

修了生を代表して美原地区の林恒雄さんから、「この1年間、みらい塾を通して農協の仕組みや酪農の基礎知識、技術的な事を学ぶ事が出来ました。講義を通して立場の違いや、置かれた環境の違いから来る様々な考えや意見の違いを知ることが出来ました。みらい塾での経験を活かして、将来経営者になった際には自分で得た知識と経験を基に、自分で選択して酪農経営をしていきたいです」と力強い挨拶がありました。

みらい塾を修了された方たちの感想文は14ページ、16ページに掲載しています。

酪農は循環産業、学ぶ知識は多くあり、一つひとつの講座を大切に

みらい塾 入講式



平成27年度
第7期みらい塾入講式

平成27年度第7期みらい塾入講式が1月15日行われ、新たに学ぶ5人が紹介されました。

紹介された入講生は席から立ち上がります。出席者の視線を一気に浴びた入講生は緊張しているようでしたが、その緊張の中にも「これからみらい塾で頑張っていきたい」という気概が感じられました。

今期よりみらい塾の対象塾生を後継者だけに限定せず、担い手及び担い手の配偶者や兄弟姉妹と致しました。

塾長より「今期は経営者と後継者、男性と女性など、様々な立場の方々がいらつしやいますが、互いに絆を大切にしながら、講座を受けていただきたい」と挨拶をいただきました。

続いて根釧農業試験場の草刈場長より「酪農は循環産業でありますので、草地の植生、家畜ふん尿の処理、

受胎率の向上など得なければならぬ知識がたくさんありますが、みらい塾ではそれらを学ぶのにも良い機会となりますので、ひとつひとつの講座を大切にしていきたい」との挨拶をいただきました。

その後、入講生を代表して美原地区の尾形徹さんが、「1年間、みらい塾を通して酪農や農協について学び、立派な地域の担い手となる



これから1年間、みらい塾で酪農の知識を得ようと入講式に臨む5人の塾生たち

ように努力しますので、皆様におかれましては、ご指導の程、よろしくお願いいたします。」と力強い代表挨拶をいたしました。

その後、7期生は昼食を挟み、団地センター研修室にてオリエンテーションを行い、館内営農部長から受講に当たっての心構えや年間の講座内容についての説明を受けました。

そして、みらい塾で学びたい事を塾生同志でそれぞれ話し合いました。代表選出では入講式でも挨拶をいただいた尾形徹さんが第7期生代表に決定しました。

みらい塾生は1月から12月の間、定期的に開かれる講座を通じて、農協運営事業をはじめ乳質向上、草地の植生、家畜の改良、また、視察を通して経営管理や乳牛の飼養管理について学ぶこととなります。



みらい塾入講の決意表明をする尾形徹さん

みらい塾 第7期生 プロフィールをご紹介いたします。



豊原地区

★名前 井上 哲孝

(いのうえ のりたか)

(31歳)

井上哲孝牧場経営者

★生年月日

昭和59年1月14日

★みらい塾に応募したきっかけ

勉強するため

★趣味

スケボー・スノーボード

★好きな言葉

「適度」

★将来の夢

楽しく暮らす。

★皆さんに一言

よろしくお願ひします



豊原地区

★名前 中村 理美

(なかむら さとみ)

(28歳)

中村教組組合員後継者

★生年月日

昭和61年3月25日

★みらい塾に応募したきっかけ

J A 担当者の勧誘

★趣味

映画鑑賞・スノーボード・釣り・山菜取り

★好きな言葉

「愛」

★将来の夢

ゆとりある、楽しい酪農経営

★皆さんに一言

1年間、よろしくお願ひします



美原地区

★名前 尾形 徹

(おがた とおる)

(31歳)

尾形春喜組組合員後継者

★生年月日

昭和58年7月15日

★みらい塾に応募したきっかけ

勉強のため

★趣味

ドライブ

★好きな言葉

「努力は必ず報われる」

★将来の夢

考え中

★皆さんに一言

よろしくお願ひします！



美原地区

★名前 上神 大地

(うえかみ だいち)

(21歳)

(有)U・S・F 後継者

★生年月日

平成5年6月29日

★みらい塾に応募したきっかけ

J A 担当者の勧誘

★趣味

ドライブ

★好きな言葉

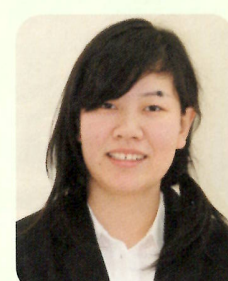
「やればできる」

★将来の夢

big になること

★皆さんに一言

よろしくお願ひします



中春別地区

★名前 出田 有花里

(いづた あかり)

(20歳)

出田司組組合員後継者

★生年月日

平成6年9月11日

★みらい塾に応募したきっかけ

J A 担当者の勧誘

★趣味

散歩

★好きな言葉

「マイペース」「前向き」

★将来の夢

長く酪農経営を続ける

★皆さんに一言

1年間、よろしくお願ひします

青年部
新年会

仲間と新年を祝い、若い力で
今年1年更なる活躍を



藤倉副組合長の乾杯の音頭で新年会が始まりました

新年を迎え、農協より小湊代表理事組合長をはじめとする多くの来賓の方々、中春別酪農対策協議会より西川会長のご出席をいただき、青年部新年会を1月15日(休)に北平系会館にて盛大に開催いたしました。



新年の挨拶を述べる松井青年部長

開催にあたり松井青年部長、小湊代表理事組合長よ

り新年のご挨拶をいただき、藤倉副組合長の乾杯の音頭で開会いたしました。乾杯と共に食事を楽しみながら、新年初顔合わせの部員同士やご出席いただいた来賓の方々と新しく始まる畜産クラスター事業や乳



久しぶりに合う部員同士、ご馳走の前に誓も話もすすみました

きましよう。

西川会長より青年部活動を通じて、若い力でこの中春別をより活性化することを祈念し、一本締めで新年会の幕は閉じました。昨年は、部員の皆様の協力のおかげで、活発な事業展開が行うことができました。今年も昨年より活発に青年部活動を展開できるよう、部員一同力を合わせて頑張ってい

価の引上げなどの27年度からの酪農情勢と言った仕事の話から、「結婚式はいつ挙げるんだ？」と言ったプライベートな話に華を咲かせ、終始賑やかな新年会となりました。仲間が集まって話し始めると、時間が経つのはあっという間で、気付くと閉会の時間を迎え、まだまだ話し足りないと言った雰囲気ではありましたが、最後に



若者が希望を持って酪農に打込める未来へ

平成26年度根室地区 JA青年部幹部研修会を終えて

毎年開催されておられますJA根室地区青協幹部研修会が、管内盟友12人の参加のもと1月22日～24日において開催されました。

当青年部からは松井部長、山田理事が参加され、農林水産省生産局畜産企画課との意見交換会、衆議院議員・伊東良孝氏、鈴木貴子氏への表敬訪問、雪印メグミルク本社への研修を行ってきました。

保について、「この事業はこうしたほうがいいのではないか」など、若手ならではの意見交換ができました。その後、場所を移し、今年度根室地区で受け入れた農林水産省の若手職員たちと懇親会を開催し、仕事の話やプライベートな話まで終始盛り上がりながらの懇親会となりました。

国会議員を表敬訪問 JA全中、 雪印メグミルク本社へ

2日目

衆議院議員・伊東良孝氏、

1日目
まず始めに農林水産省へ訪問し、生産局畜産企画課の方々と意見交換を行いました。

そのなかで、新事業となる畜産クラスター、遊休農地、ヘルパーや雇用従業員の確

鈴木貴子氏へ表敬訪問し、忙しい中、お時間をいただき昨今の酪農情勢や現場の悩みなどについて意見交換させていただきました。その後、JA全中に移動し研修を行い、そして雪印メグミルク本社へ行き担当から牛乳、乳製品、新製品の需要供給状況の説明をし



農林水産省生産局畜産企画課と活発な意見交換ができました



鈴木貴子衆議院議員と酪農情勢について意見交換



忙しい中、時間をいただき伊東良孝衆議院議員と意見交換

ていただきました。夜の懇親会では、今回、幹部研修に参加した盟友と親睦を深めました。2泊3日と短い中での研修会でしたが現場の生の声を届けられたこと、また、議員を始め各担当者からの貴重な意見を聞くことができ、今後の酪農経営や青年部活動へ役立たせることができ、

動へ役立たせることができ、貴重な体験ができました。また、夜には管内盟友との懇親会も開催され、日頃の仕事の話から青年部活動についてなど熱く語り合う事ができ、管内盟友との親睦も図ることができた研修会となりました。

(青年部理事・山田晃嗣)



管内盟友と熱く語り合いました



新年会

別海町ポルシエにて新年交流会を1月20日に開催しました。

農協より小湊組合長をはじめ、酪対より西川会長をJA地区女性協より畠山会長を招いての開催となりました。部員18人が新年の挨拶を交わし、豪華

新年1回目の行事は、笑いの絶えない時間となりました!

が研ぎ澄まされているのが100円以内の誤差に収める方が続出し、会場をわかせました。

チーム対抗で二人ばおりをしてお菓子を早く食べるゲームでは、お菓子を箸でうまくつかめなかつたり、つかめても口にお菓子を運ぶ途中で落としてしまつなど、

見ている方は「もうちよつと右!」や「あー!落ちちゃった!」ともどかしい気持ちになりながらもとても盛り

上がっていました。

最後にビンゴゲームを行いそれぞれが景品を獲得し、畠山会長の一本締めで終了となりました。最後まで笑いの絶えないにぎやかな新年会となりました。参加された皆さんお疲れ様でした。



齋藤部長より開会の挨拶をいただきました

なごちそうを前に小湊組合長より挨拶を賜り、西川会長の乾杯で新年会がスタート。食事がひと段落したところで恒例のゲームが始まり、値段当てゲームでは日頃家族の買い物をして感覚



ビンゴゲームで景品をゲット

▲二人はおひで思いつくにお菓子が箸で押さなく苦戦しています。

忙しい中でも 美しさを 保つために

第42回
別海町酪農女性のつどい



髙橋部長の司会で講演を進行



午後からはフリーマーケットが100円の安さで開催されました

第42回別海町酪農女性のつどいが、12月2日に別海町中央公民館にて開催され、午前中は北海道厚生農業協同組合連合会の真中道子氏による「スキンケアと化粧品について」の講演を行いました。

スキンケアの方法や自分に合った口紅の選び方など、実演中心の講演だったため参加者の方は興味津々に講演に耳を傾けていました。

クレンジングは化粧品をしていない日でもつけた方が肌を綺麗にし、明るく見せてくれること



自分に合った口紅の選び方を実演しました

や、洗顔後のすすぎは30回を目安に、決してシャワーで直接すすぐのではなく、手に取ってから優しくすすぐことなど、時間が足りないと感じてしまうほど楽しい講演となりました。

午後からはフリーマーケットが開催され、衣類や食器などの他に手作りとは思えないほどの綺麗なアクセサリーなど様々な物が並び、各100円という安さだったため両手いっぱい商品を持っている方おり大盛況の中、酪農女性のつどいが終了しました。

手作りのしめ縄飾りで 新年を迎えました

女性部プリザードフラワーを使ったしめ縄飾り作り

12月15日に計根別の水沼和子さん・松原とみ子さんを講師としてお招きし、プリザードフラワーを使ったしめ縄飾りの講習会を開催しました。

しめ縄作りは、藁の飾りをワイヤーで固定し、松の枝・南天の他に今年の干支でもあるかわいらしい羊の小物などを装飾しましたが、藁を重ねる向きやそれぞれの飾りの配置などが難しく、見本を参考にしたり水沼さん・松原さんに教えていただきながら丁寧な作業が続きました。プリザードフラワーにワイヤーを刺し固定させる作業では壊れやすいプリザードフラワーの扱いに苦戦している方もいましたが、それぞれのセンスの光る作品が完成することができました。



親切な指導を受けしめ縄飾りに挑戦！ 完成したしめ縄飾り



それぞれ個性溢れる作品が完成しました

世代を越えて 音楽の楽しさを体感しました



午後
の冬
晴れ
のもと
旧豊原
体育館
で12月
23日(火)
豊原
音楽祭
が開催
されました。

若さを爆発して、迫力ある歌を披露していただきました

豊原地区の音楽に縁のある大人たちから保育園児までが音楽を通じて音楽を聞く楽しさや演奏や歌う楽しさを来場されたお客さんと分かち合いました。

出演された17組の方々の楽器の種類が幅広く、サクソフなどの金管楽器やギター・ドラムなどの管弦楽器の他に、特に印象に残る楽器は、初めて見る子供の背丈以上もある箱型のコントラバスリコーダーでした。初めて見るためか、細長い鮭箱の見た目からどんな音が出るのか興味津々で演奏を聞いていると、見た目と奏でる音のギャップがすごく、繊細で透き通った音に驚きました。

音楽祭は、小学生のリコーダー四重奏で幕を開け、次に保育園児の鈴による「ジングルベル」では、我が子を撮影するために、会場の前列はカメラを持ったお父さんお母さんでいっぱいとなりました。



透き通った音色のリコーダーを演奏する子供たち

次に竹ヶ原先生の歌と校長先生のギター演奏による「LEET - T GO」では、竹ヶ原先生の美声もさることながら、校長先生のギターソロでは、いつもとは違う姿に集まったお父さん、お母さんから歓声が上がりました。子供達は手拍子で先生の演奏を後押しし、会場はその日一番の盛り上がりとなりました。

最後の和太鼓演奏では、豊原の若者で結成したチーム響による「大草原青動太鼓」が披露され、若さ溢れる力強い太鼓の音色が会場全体に響き渡り、豊原音楽祭が幕を降ろしました。



小さな手に鈴を持ってジングルベルを奏でる保育園児たち



忙しい仕事の合間をみて、「豊原音楽祭」ご合わせ懸命に練習してきました



冬も元気な豊原地区・スケート教室、音楽祭活動トピックス



豊原保育園スケート教室

あつといいう間に滑れたよ！

豊原保育園で年中・年長園児を対象に別海町総合スポーツセンターより菊地先生・浜野先生を講師に招き、1月29日(木)スケート教室が開催されました。

当日は、寒気の影響で朝からマイナス10度とスケートリンクには、良い

菊地講師の指導でみるみる間に上達していききました



始めはビールのケースに掴まっておっかなびっくりでしたが...

つたりと、例年になく温かい日が続いたため、スケートリンクが完成するまでには、いつもの年以上に時間がかかり、お父さん、お母さんが連日夜中まで水撒き作業のこももあり、今年もスケート

コンディションとなりましたが、集まったお父さん、お母さんには厳しい環境となりましたが、子供達は始める前から元気いっぱい、ヘルメットをかぶり準備万端で、講師の先生の到着をまだかまだかと待ちました。

今年、年明けからは、年明けの雨は降



ちよつとの時間で一人立ちして滑れるように

ト教室が開催することができました。

講師の先生が到着し、スケート教室が始まると、年長園児はスイスイとスケートリンクの上を滑り出し、年中園児はまだまだ立つのがやつとの園児が多く、転んでは、立つてを繰り返していましたが、椅子を押しながら滑ったり、離れた場所の椅子を取りに滑ったりと、基礎練習を楽しみながらやっていたうちに、端から端まで転ぶことなく滑れる園児が一人、また一人と上達して、最後には園児全員がスケートリンクを転ばずに往復できるまでに成長しました。最後に教えてもらった技



お父さん、お母さんも参加した楽しいスケート教室になりました

術の集大成として、講師の先生と「だるまさんが転んだ」で、氷を蹴る感覚や止まるコツを再確認してスケート教室が終わりました。

今回、スケート教室を取材した中で、何度も転んで、立ち上がるたび成長する子供達の瞬間を見ることができ、来年どれだけ成長しているのか、取材するのが楽しみにになりました。

寒い中、スケート教室に参加していただいたお父さん、お母さんお疲れさまでした。

今までの知識、技術をいかし、 1頭でも多くの愛牛をショウリングへ

白樺食堂において第27回定期総会を1月28日(水)に開催されました。

総会開催を前に平成26年度新規エクセレント獲得並びに特別賞授賞式が行われ、エクセレントを獲得された久保光大さん、山田光男さん



総会に先立ち表彰式が行われました

ん、橋本幸二さん、山田晃嗣さんが表彰されました。引き続き府県においてエクセレントを獲得した繁殖者として中西貴司さん、西川寛稔さん、妻沼和紘さんが繁殖者賞を受賞されました。

総会の開催に先立ち、竹

田会長よりこの1年の活動報告と次年度に向けた挨拶がありました。定期総会の開催を祝し、農協を代表し藤倉副組合長、来賓の方々を代表し(二社)ジェネティクス北海道東事業所所長藤田功様よりご祝辞をいただきました。

議事を進行するに当たり、議長には美原地区服部恒洋さんが選出され議案第1号から議案第4号まで可決。



藤倉副組合長より祝辞をいただきました

承認されました。

平成26年度の事業といたしまして次世代を担う若い会員に向けた「毛刈り講習会」の開催をはじめ、更なる牛づくりを目指し活動を展開すべく、乳牛の飼養管理技術及び乳牛施設等の学習として「牧場視察講習会」「女性視察研修」、「酪農視察研修」の実施、「根室管内パーンミーティング」へ参加し、各会員のスキルアップと情報や意見交換を行って参りました。また、ショウリングにおいては平成26年根室ブラック&ホワイトショウリングにおいてリザーブ・シニア・チャンピオンの獲得、平成26年根室ホルスタイン共進会ではグランド・リザーブ・チャンピオン、シニア・リザーブ・チャンピオンを獲得しました。更に9月に安平町で行われた第16回北海道総合畜産共進会では、出品牛5頭全



乾杯の音頭の後、親交を兼ねた懇親会が始まり、話は北海道開催の日本ホルスタイン共進会へと進み1頭でも多く出場へ

てが入賞し、うち3頭が1等賞3席に入りショウリングを沸かせました。

平成27年度は長らく開催が延期されていましたが「第14回全日本ホルスタイン共

進会」が地元・北海道にて開催されます。日頃より培ってきた知識・技術を存分に活かし1頭でも多くの愛牛がショウリングに立てるよう祈願したいと思います。

根室農業改良普及センター
営農対策情報

冬期間の牛舎内環境を見直そう

寒さのあまり、牛舎を閉め切つていませんか？

閉め切られた牛舎は、汚れた空気がこもり、牛へのストレスは想像以上です。

牛のストレス軽減のために牛舎内環境を少しでも良くしてみませんか。牛のストレス軽減は、人の快適な作業にもつながります。

△換気▽

換気が不十分な牛舎では、次のようなことが起こります。

- ・アンモニアやカビの臭いがする。
- ・窓や天井が結露している。
- ・牛床や通路が湿つていて、乾きにくい、滑りやすい。

施設によって自然換気、強制換気（トンネル換気やリレー換気）など換気方法は異なりますが、窓・扉の閉め切りやファンの停止を見直し、凍結しない程度に空気の入れ換えを行いましょう（写真1）。新鮮な空気を取り込み、汚れた空気・臭気や湿度を、牛舎外に排出することが大

切です。窓や扉を開ける際には、ネットを張り、動物や鳥の侵入を防ぎましょう。



写真1 ファンを回している牛舎

子牛は親牛よりも寒さに弱いため、ほ育・育成舎は、より閉め切りがちになります。

敷料をたっぷり入れ、直接風が当たらないなどの寒さ対策をした上で、換気を行うことが大切です。

旧牛舎をほ育・育成舎として利用している農場を調べると、牛舎内は高いアンモニア濃度でした。しかし、掃除（除ふん・敷料交換）をした後は、アンモニア濃度が低下することがわかりました。環境改善には、掃除も

効果があります（図1）。

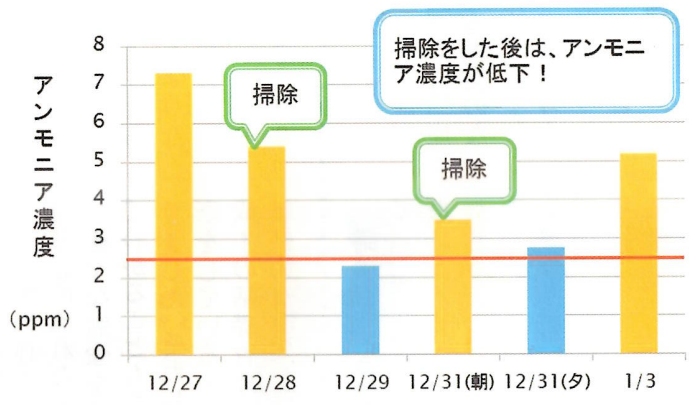


図1 掃除による牛舎内アンモニア濃度の低下 注> 図中の赤線以下を目標

△牛床管理▽

放牧期と異なり、牛床で過ごす時間が増えるため、牛体を清潔に保つことが大切です。

ふん尿処理方法で制限がある場合もありますが、敷料を十分に入れ、定期的に変換することや、こまめな除ふん作業を行いましょう。

牛床と同時に通路を乾燥させることでアンモニアの発生を抑制することも重要です（写真2、3）。



写真2 こまめな敷料交換と通路に石灰を散布している



写真3 スラリー体系のため牛床・通路にもみがらを使用している農場



みらい塾を終えて



遠藤 貢紀

今回第6期みらい塾に入った理由は、みらい塾事務局担当である赤井さんが直接家に来て、『みらい塾に入りませんか?』と聞かれた事がきっかけです。本当は専門学校と別海農業特別専攻科を終えてから勉強する気はなく、別にいいかなとは思っていたのですが、農協

組織や仕組みに何も知識がありませんでしたので、良い機会だなと思い入講を決意しました。

この1年振り返ってみると、あつという間に感じました。月に1回から2回の講座が有るくらいでした。

みらい塾のメンバーは年齢の幅は様々でした。

みらい塾の講座では、関係機関とのつながりを目的とし、今回は外部視察に雪印メグミルク中標津工場、北海道酪農検定検査協会根室事業所、ジェネティクス北海道、GEAオリオンファームテクノロジ、根釧農業試験場、根室農業改良普

及センター、根室農業共済組合、根室管内4日クラブ連絡協議会に伺わせてもらったり、お話を聞いたりしました。

また、外部農家視察では、優れた育成牛の飼養管理についてギガファームグループに、放牧について豊原地区加藤組合員、繋ぎ牛舎における飼養管理のポイントについて中春地区大内組合員、大規模農場の経営について美原地区小西組合員のもと、とても参考になるような話まで聞けたので有り難いと思えました。

農協各課の課長さんから

は、課ごとの仕事内容や課の紹介などの概要を聞けることができ、農協組織について聞けたのでとても勉強になりました。

いろいろ聞いた講座で印象に残っているのは、共済の獣医さんによる講座です。飼料設計、繁殖、乳房炎、分娩後の疾病などの牛の病気に関しての講座や乳検データの実用性の仕方や見方、農業簿記の流れなどと実践など様々な勉強をやり、改めてわかることもたくさんありました。それに各農家視察をしている中で仔牛・育成牛の基礎管理の徹底、最新技術を駆使した酪農経営

講義が回を重ねるにつれて、飼養管理、草地管理、営農計画書の作成など、酪農経営を行っていくうえで必要な専門的な知識を学んでいきました。とくに営農計画書でやった農業簿記など、初めてやることも多く、苦戦することも多かったですが、同じ塾生や講師の方々に助けられ、無事終えることができました。講義のなかでも、いろいろな牧場を見学させていただいたことが一番ためになったと思います。

など、とても勉強になりました。この1年間を通してこの5人でやってきて、これから同じように経営者になる仲間として、いろいろな話もすることが出来良かったです。そして、たくさんの関係機関の講師の方々を迎えることで人脈を増やすことができ、これからの経営に一步步近づいていくことが出来たのではないかと思います。

この1年間まだまだ分からないことも多く、まだ学ぶこともありましたが、みらい塾での講座などいかして、これからの実践に取り組みで頑張っていけたらいいと思います。

各牧場を視察し勉強なり今後活かしていきたい



木原 直紀

私にとってみらい塾での1年間は長いようで短く、終了まであつという間でしたがいろいろなことを学べてとても充実した時間を過ごせたと思います。

私がみらい塾に入ろうと思った動機は、大学を卒業し、その後1年半酪農ヘルパーとして働き、去年実家に帰ってきたので、自分が農協についてあまり知らなかったためです。

6期生のメンバーは、豊原地区2人、美原地区2人、中春別地区1人の5人でした。同じ世代の人やそうでない人もいましたが、同じ後継者として、良い交流ができ

ました。講義については、序盤はなかなか知る機会のない農協について学びました。1番身近な組織ではありませんが、そもそもどのような組織なのか、どんな部署があり、どんな業務をし、どんな人たちがいるのか、ほぼ分かっています。この講義を受けて、農協の成り立ちから、すべての組織についてまで知ることができたのでよかったです。

講義が回を重ねるにつれて、飼養管理、草地管理、営農計画書の作成など、酪農経営を行っていくうえで必要な専門的な知識を学んでいきました。とくに営農計画書でやった農業簿記など、初めてやることも多く、苦戦することも多かったですが、同じ塾生や講師の方々に助けられ、無事終えることができました。講義のなかでも、いろいろな牧場を見学させていただいたことが一番ためになったと思います。

放牧をしている農家ということで行った豊原地区の加藤さんをはじめ、中春別地区の大内さん、ギガファームさん、美原地区の小西さんなど、普段牧場見学はしたいと思ってもなかなかみる機会がなかった場所なので見学させていただきました。大変ためになりました。どの牧場も飼養管理はばらばらですが、だからこそ新しい発見があり、自分の家に活かせるようなことも多かったです。また、その

他、草地更新や牛舎の迷走電流についての勉強会、ジェネティクス、ABSの交配相談サービスについて、また、自分たちが絞った牛乳が運

みらい塾を終えて



小野 陽平

ばれて加工されている雪印など、酪農経営していくうえで、かかわっていく人たちとの交流もありました。この1年間にほかの地域の後継

者さんと交流できただけでなく、酪農にたずさわっている人たちに出会えた1年でした。みらい塾は終わってしまったが、これ

からも多くの人と出会う機会に積極的に参加し、多くのことを勉強し、これからの経営に活かしていきたいと思っています。普段の業務や作

業の合間を縫って講師として講義をしていたいただいた農協職員の皆さん、農家のみなさん、会社の職員皆さんありがとうございました。

と思っていました。しかし、みらい塾生であった知人や周囲の方からの勧めもあり、改めて勉強してみようと思いきつかけとなり入講を決意しました。

乳房炎の話や種牛についての話が印象に残りました。サイレージのカビを取り除くこと、適切な搾乳方法をを行うこと、ベッドを常に清潔にすることで、乳房炎はある程度は防げると思っていました。しかし、カビのある部分から下までカビが浸透していて、下の部分のほうがかびの菌が多いため、サイレージのカビの部分を取り除くだけでは不十分と知り勉強になりました。今後は、働いていく中で細かいところまで目をつけていき、乳房炎になりにくい環境づくりにこころがけていきたいと思いました。

種牛のことにに関してはあまり考えたことがなく、どの種をつけてもあまり変わりはないと思っていました。ABS、ジェネティクスの話を聞いて種牛に対しての見方が変わり、種牛によって生まれてくる牛の能力や特徴などが全く違うと感じることができ、種牛もしっかりと考えて環境にあった種の選び方が必要だと思いました。高校、大学は野球関係で進学していたため酪農とは全く関わるということがなく、みらい塾で教わることは一つ一つが新鮮で興味深いものでした。入講して牛飼いの技術や知識、農協の仕組みな

ど詳しい部分まで知ることができました。みらい塾でもに学んだ仲間との話の中で経営のことなど、それぞれの考えが聞けたこともいろんな視点から物事を考えるきっかけになったかと思えます。今後、新しく酪農に携わる方々にも、自身の知識を深め人間関係を築いていく大切さを、みらい塾を通して学んでいただきたいと思えます。

私は正直、最初みらい塾に入るのが嫌でした。なぜかと言うと幼いころから親の仕事を見てきたため、ある程度親に教えてもらいうことで、仕事について理解できていると思っていたからです。また、入らない人もいると聞き、仕事を終えてから定期的に集まることも大変か

れからも日々変わっていく経営状況や、農協に関してのことを常に勉強していかなければならないと思いついた。牛に関する講義につ

ジでしか捉えていなかった農協の仕組みについてある程度細かく知れたのと、何より興味を持つことが出来ました。やはり何事も興味を持たない事には、話を聞いても知識として覚え込むことも出来ません。そう言っ

た意味では多大な「機会を」与えて貰ったのだと思います。農協組織の仕組みだけではなく、牧草成分や草地更新の大事さであったり、牛の遺伝についてであったり、その遺伝についてであったり、そして、発情の事。それらも全部改めて知り、考え直す機

会を与えて貰ったと思います。他にも実地研修なども多く取り入れて貰えた点も、大きなポイントだったと思います。座学だけではなく実際に牧場を見て回ったり、テーマごとに重要な要素を決

酪農全体を改めて知る機会になった



林 恒雄

みらい塾に1年間通わせてもらって、様々な事を知ることが出来ました。まずひとつ勉強になったのは、農協組織についてです。それまで漠然としたイメー

それまで漠然としたイメージ

それまで漠然としたイメージ

それまで漠然としたイメージ

多くの講習を受け勉強の機会を得る



佐藤 一幸

めて、それを目にしたりすることで、より実感を持つて講義を受け止める事が出来ました。やはり文字や写真で見ただけではなく、実物を肌で感じることは大事な事だと思いました。また、みらい塾は多くの出会いをもたらしてくれたと思います。同期の塾生、農協職員の方や、講師の先生に至るまで、「初めまして」と「これから

よろしくお願ひします」を言わせてもらう事が多く、そういった点で、これからこの地域で生きていく中での面通しを改めて行う事が出来たように思います。元々私は農業系の学校を出ている訳でもなく、高校も普通科です。地域で農業に携わる機会を持ったことはありませんでした。まったく別の職種に就職し、し

ばらく遠い地で生活をしていました。酪農を本格的に学びだしたのは、帰郷して家を継ぐことを決心してからです。もちろん家の仕事はなんとなく知っていましたし、地域には同じ年代の友達もいます。

多く、また、知り合いの範囲というものも非常に限定的な物でした。みらい塾を通して、前述の通りいろいろな機会を与えて貰った事で、そういった状況を打破していく第一歩になったのではないかと思います。

礼をいいたいと思います。やはり酪農家という仕事の都合上、どうしても日程が合わない日や、突然出られなくなることも多かったのですが、辛抱強くスケジュールを組んでくれてとても助かりました。これからもみらい塾は続いていくと思いますので、酪農従事者の芽をこれからも大事にしてあげて下さい。

べました。

私は第6期生として「みらい塾」に入講しましたが、事情により前半は受講する事が出来ませんでした。後半のみの受講で残念ながら十分とは行きませんでした。が、講師の方々の方が易い講習により多くの事が理解出来ただけでなく、新しい疑問を得る事により更に多くの勉強の機会を得る事が出来ました。

第11回の「草地の植生に

ついて」の講習では、除草剤の効果など実験データを使つて的確に教えていただきました。実際の草地を見ながらの講習も多くの牧草を比べて見る事によつて、今まで気にしていなかった草地の微妙な違いを見分ける事が出来るようになりました。知識なども重要ですが、大事なのは積極的に意識して草地を観察することが必要だと思いました。

故障を早期発見して大きくしない方法などを教えていただきました。修理されている機械も多くあるので、メーカー毎の特徴なども詳しく教えていただきました。

かかわる税金の仕組みや法改正で変わった事などを受講しました。農業簿記の記帳方法などは、高校や専攻科で学んでいたので基本は知っていましたが、改めて大変な作業だと思いました。最近ではパソコンで作るのが普通ですが、自分の家の農業簿記も手書きで作り、その流れや仕組みをしっかりと理解してみたいと思ひました。

経営について」では、美原地区の小西牧場さんを視察させていただきました。家が近いせいもあり何度か拝見させてもらう機会はありませんでしたが、改めてよく見させていざと大量の牛を、万歩計を使って個別に管理したり、能力や分娩時期毎に分けて管理したりされていきました。残念ながらみらい塾の全ての講習を受講する事は出来ませんが、多くの方の講習を受ける事が出来ました。講師の皆様、とても親切に多くの事を教えていただき本当にありがとうございました。

第13回の「農業機械のメンテナンスについて」の講習では、中春別マシンセンターにて、実際に地元で使われている機械を見ながらメンテナンスの仕方だけでなく、

第16回「優れた育成牛の飼養管理方法について」で、ギガファームの兼松さんへ実際の育成舎や育成牛を見ながら、多くの人から信頼と支持を受けるノウハウの一部を教えてくださいました。衛生管理やフリーストールで飼うための育成牛の訓練や、能力の高い胃を作るエサなど具体的に分かり易く教えていただきました。兼松さんの作った鳩捕獲器面白かったです。

第20回「疾病予防のための飼料設計について」では、獣医の大和田先生による講習で、実際によく罹る病気を予防したり発見したりするためのお話をしてくれました。難産の対処についても詳しく教えていただき、直ぐに仕事に生かせる事が学

簿記については、農業に

しっかり積み立てて、安心して豊かな老後を!
国が支える、大きな安心!

農業者年金

国が支える 安心が大きくなる

担い手積立年金

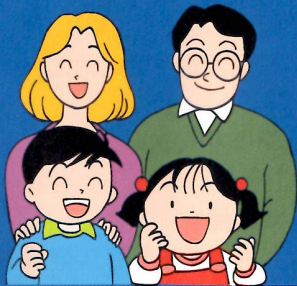
「担い手積立年金」は農業者年金の愛称です

経営者だけでなく、夫婦や親子で
そろって加入することを
おすすめします!!

■あなたの老後の備えは十分でしょうか?

■年金は家族一人ひとりが準備することが大切です!

■農業者年金は、あなたの老後をサポートします。



詳しいお問い合わせ・ご相談は

JA中春別営農振興課まで ☎0153-76-2241

あなたが60歳未満の国民年金の
第一被保険者なら
年間60日以上農業に従事
していれば農業者年金に加入できます



あなたに伝えたい5つのこと

- 1 老後に欠かせないものは、「健康」「友達」「生きがい」「お金」です。
- 2 死んで遺族に役立つ金よりも、老いて自分に役に立つ年金を持ちましょう。
- 3 自分の老後は、自分で計画を立てて考えないと、誰も面倒を見てくれません。
- 4 掛けた保険料を取り戻すことが年金の目的ではありません。老いたときに、安定収入の道を確認しておくことが年金の目的なのです。
- 5 現金や貯金は使えば使った分だけ減り続けます。しかし、年金は使っても必ず後から再び振り込まれてくるものです。

平成26年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告の相談及び申告書の受付は平成27年2月16日(月)から3月16日(月)までです。

納期限は平成27年3月16日(月)です。

納付には便利な振替納税を是非ご利用ください。
(振替日:平成27年4月20日(月))

詳しくは、国税庁ホームページへ www.nta.go.jp

e-Taxで送信!または書面で提出!

申告書の作成は便利な「確定申告書等作成コーナー」で!!

画面の案内に従って金額等を入力すれば、税額などが自動計算され、所得及び復興特別所得税、消費税及び地方消費税の確定申告書や青色申告決算書などを作成できます。また、作成したデータは、**「e-Tax(電子申告)」**を利用して提出できます。

※e-Taxの利用に際しては、電子証明書の取得(手数料が必要です。)、ICカードリーダライタの購入などの事前準備が必要です。

農場での休日は基本は毎週日曜と月曜の朝にもらえて、休日にはマーカスの代わりにカレーを作ったりすることもありました。

研修を終えて

ニュージーランドはちょうど春を終えて夏へ向かう頃と言うところでしたので気候的には日本の6月くらいのように雨が多くなると2～3時間で降ったりやんだりを繰り返すことが多かったです。マーカスさんやトリスタンさんを始めニュージーランドの人はとても親切で、困っている時も気軽に話しかけてくれてアドバイスも多かったです。



オークランド市内にて

私が2カ月間ニュージーランド研修を通して学んだことは、ニュージーランドも日本も結局どこまでいっても同じ人間が住んでいるということです。私は研修当初、生まれて初めての外国で会話もまともにできるか不安でしたし、その土地の文化や風習、食事になじめる自信も全くありませんでした。しかし、実際に行ってみて人と交流したり仕事をして感じたのは、確かに日本に比べ文化や風習など違う部分も多く、そういったことも驚きつつも楽しむことができたのですが、自分も相手も同じ人間で何も変わらないということです。農業も同じで、気候が違うためにその土地に合うような放牧酪農が主体の経営になっているだけで、結局毎日搾乳して牛を見て給餌して…といったことに大きな違いはない、という事は私はこの2カ月の研修を通して学ぶことができました。



放牧中の牛たち

このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

●【経営科】中標津農業高校で東北北海道実績発表大会当番校

1月22日(木)、23日(金)に東北北海道学校農業クラブ連盟実績発表大会が中標津町で行われます。3発表が、本校代表として出場します。各班ともに冬休み返上で、提出資料の作成・整理や発表練習を行いました。

入賞したグループは、2月4日(水)～6日(金)に日高管内の静内農業高等学校が当番でおこなう全道実績発表大会に出場する予定です。

【区分:食料・生産】「基本は生産から～ホームプロジェクトで取り組む乳質改善～」

伊藤雄一、齋藤涼太、井上季音、笹岡巧

【区分:文化・生活】「ベジタベ～る交流会～地域に根ざした食育活動～」

漆原望美、奥山綾奈、田畑陸、南澤武琉

【区分:クラブ発表】「別高農ク革命第2章 ～43人で作る新たな伝統～」

田中 尚弥、森隆寛、内田佑机、掘有樹

●【経営科】現在の進路状況

今年度も卒業が近づいてきました。3年生の進路は、13人全員が合格もしくは内定を得る事ができました。今年の卒業生では北海道立農業大学校、更に酪農経営科としては、初となる北海道農業協同組合学校(JAカレッジ)にも合格するなど、奮闘が目立ちました。また、就職、進学を経た最終的な就業者は3人の予定です。

今年度の就職は求人数が比較的堅調であったこともあり、どの生徒も目標通りの就職を叶えることができました。機械整備や福祉、食品関連業など幅広くなっており、今年も含めると酪農経営科の卒業生の就職内定率は6期連続で100%となります。ご支援いただきました関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。なお、詳細は、次のとおりです(1月19日現在)。

【進学】

北海道農業協同組合学校(JAカレッジ)、北海道立農業大学校、釧路専門学校、釧路短期大学

【就職】

有限会社山口車両、別海厚生企業組合「福祉部門 すずらん」、帝北自動車株式会社、有限会社社台コーポレーション、日清医療食品株式会社北海道支店、湯宿だいいいち有限会社、株式会社エーディーケー

【公務員】

自衛隊(自衛官候補生、一般曹候補生)

北海道別海高等学校 酪農経営科・専攻科だより

●【専攻科】ニュージーランド研修から帰国しました。

平成26年9月26日～12月2日までの65日間、専攻科2年生の星聡君がニュージーランド研修に参加しました。以下はその報告です。

私は、まずオークランドにあるハワードさんとアンジェラのお宅にお世話になりました。そこでは午前中に元アメリカ海



オーナーと一緒に

兵隊員のリチャードさんに英語を習い、お昼からオークランドの町を散策していました。スカイタワーや戦争記念博物館など様々な場所を見て回りました。家ではみんなでテレビを見たり話したりして、1週間とても楽しく過ごすことができました。

その後北島のケンブリッジという小さな町の郊外にある、マーカスさんの農場で実習をしました。この農場は海拔200mのところであり、草地のほとんどは急な勾配の土地で、トラクターやバギーはもちろん、人でさえ登れないような斜面の草地もありました。家族構成はオーナー兼シェアミルクのマーカスさんのみ。息子さんが2人いるそうですがすでに独立しています。ですがよく家にホームステイさせたりすることが多いそうで私が実習に入ったときには中国人のメイリーさんがいました。

農場には犬、猫、鶏がおり、犬は牛追いのため、鶏は採卵のために飼養していました。豚と羊は食用でした。ケンブリッジのあるワイカト地方は、ちょうど私が研修に入った10～12月にかけてにわか雨が降ったりやんだりを繰り返すことが多く、実際の気候よりも肌寒く感じる日が多いそうです。



子牛たち

(B) 経営概況

マーカス農場の経営面積は140ha。土地は全て放牧地兼採草地として使われており、56のパドックに分けられています。搾乳牛は360頭、育成牛が156頭、NZでは中規模の農家です。牛はフリージアン種(ホルスタイン)とジャージー種、2つを掛け合わせたクロスを飼養していました。常時放牧を行っており、草や牛の状態

に応じてコーン、PKEといったサプリメントを給与していました。1日の乳量はピーク時で約7,000kgほどでした。牛軍は耳標の色ごとにアダルトカウ、ヤングカウ



搾乳風景

に分け、それと足の悪い牛や乳房炎に罹った牛の3つに分けられていました。パーラーは片側30頭収容できるスウィング式ヘリングボーンパーラーでした。

(B) 実習内容

私は主にマネージャーのトリスタンさんと仕事をしており、朝はヤングカウのパドック管理、搾乳、人工授精、牛舎内清掃、削蹄。搾乳は5時から始まり、マネージャーと私が最初にヤングカウを搾り、途中でマネージャーが後半の牛をつれてきて最後に乳房炎の牛を絞るというパターンとボスと共に最後に合流して掃除など

を行うパターンでした。その後朝食と休憩を挟み、11時から搾乳牛に給与する濃厚飼料の準備、パドック内の除草作業、軽く休憩をして、3時から午後の搾乳を始めていました。1日の仕事は6時ごろに終了します。また私が実習に入ったときにはちょうど採草の時期で使用していないパドックの草を刈ってサイレー



アザミ除草中

ジを作るためのタイヤ積みや水が詰まって流れなくなった土管の修理の手伝いなどをすることもありました。



サイレージ

③ 余暇・休日

仕事がない日は、マーカスさんやメイリーさんと話をしたりサッカーゲームをしたり、また、メイリーが日本のサブカルチャーに興味があるということなので、彼女の漫画を読ませてもらったり逆に自分の持っているアニメを見せあいつこしたりしていました。

生乳課情報



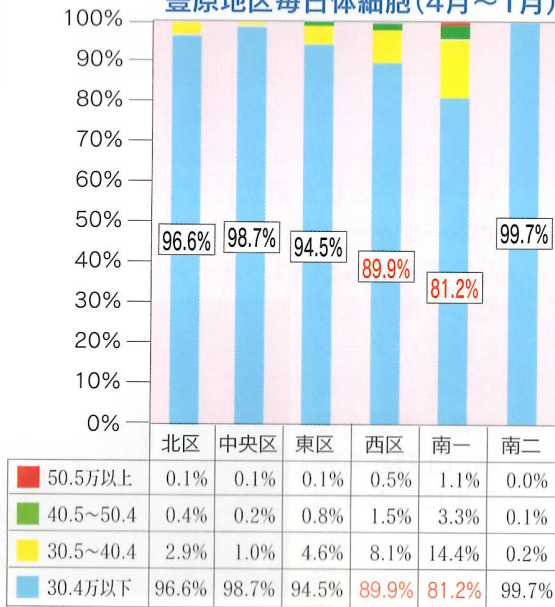
生乳汚染事故を無くそう！

- 抗生物質混入事故…………… JA中春別発生件数 **1**件 管内合計では**4**件です。
- 生菌による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。
- 異物混入(小動物)、加水、**血乳**による汚染事故… JA中春別発生件数 **1**件 管内合計では**4**件です。
- 異臭、異常風味による汚染事故…………… JA中春別発生件数 0件 管内合計では0件です。

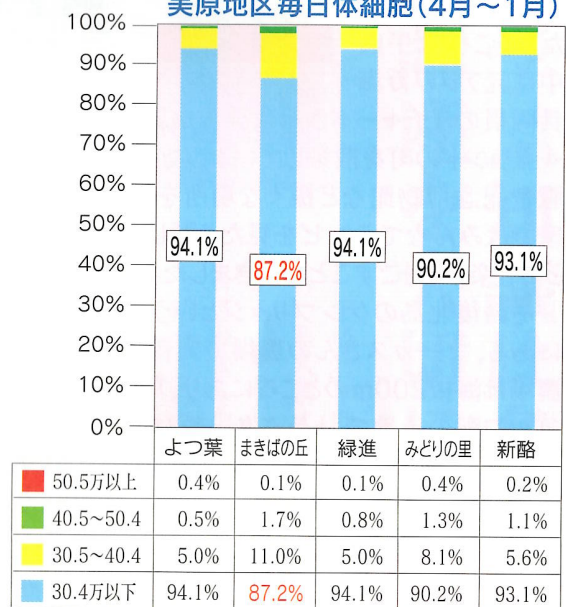
| ポジティブリスト記帳台帳保存期間 | | | |
|------------------|----|------------------|----|
| 給与飼料等記録…………… | 8年 | 農薬(除草剤)使用記録…………… | 3年 |
| 生乳生産記録…………… | 3年 | 農場内消毒記録…………… | 3年 |
| 資材交換記録…………… | 3年 | 抗菌性物質使用記録…………… | 3年 |

* 生乳生産記録表は3月初めに旬報に同封して配布致します。

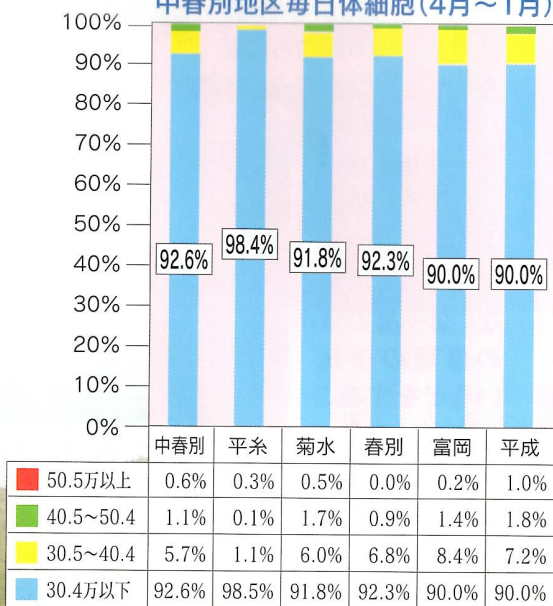
豊原地区毎日々体細胞(4月～1月)



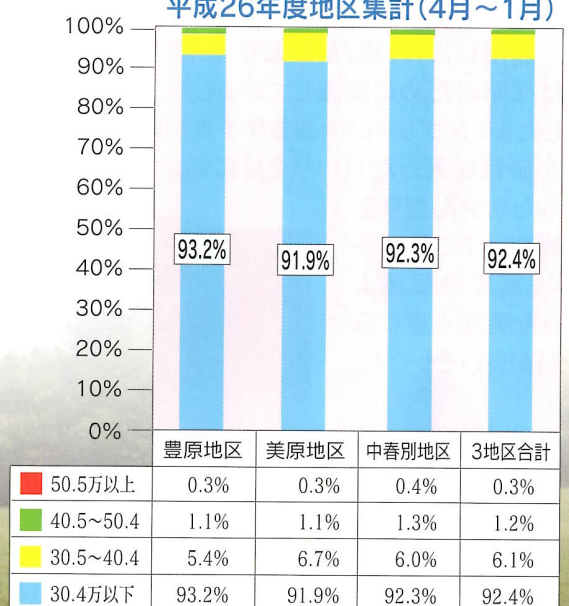
美原地区毎日々体細胞(4月～1月)



中春別地区毎日々体細胞(4月～1月)



平成26年度地区集計(4月～1月)



第10回 理事会の動き

平成26年12月29日(月)

議案

1. 出資金の減口・譲渡及び組合員資格の変動について
2. 外部出資の増口について
3. 北海道常例検査に伴う指摘事項改善状況等の回答について
4. 平成26営農年度財産造成に伴う資金の借入・貸付について
5. 組合員に係る短期一般資金の貸付について
6. クミカン取引名義変更について
7. 平成26営農年度良質乳生産乳用牛確保維持対策事業及び育成牛維持確保対策事業に伴う資金貸付について
8. 平成26営農年度経営改善促進支援資金の貸付について
9. 営農貯金特例流動について
10. 平成26営農年度クミカン精算に係る資金貸付について
11. 平成26営農年度クミカン取引に係る貸越極度額及び供給限度額の変更について
12. 平成27営農年度クミカン取引計画に係る貸越極度額及び供給限度額の認定について
13. 平成27営農年度機械利用組合クミカン取引計画に係る貸越極度額及び供給限度額の認定について
14. 平成27営農年度クミカン暫定取引について
15. 生活クラブ連合援農体験の実施について
16. 平成26年度酪農ヘルパー円滑化対策事業基金の取崩額について
17. 畜産クラスター計画及び事業の取進めについて

報告事項

1. 組合員の脱退について
2. (社)北海道農協経営審査協会による内部審査報告書について
3. 経営定期点検実施要領の一部改正について
4. 平成26年度11月末営農生産関連実績について
5. 平成26年度集荷路線除雪について
6. 平成26年度みらい塾修了式並びに平成27年度開講式の開式について
7. 欧州酪農視察研修の参加について

12月 乳質乳価一覧表

(単位:円/kg)

| | | | 単価 | 算出基礎 | 支払乳価 | 前年同期 | 差 |
|----------|------|------|---------|-----------------|-------|-------|-------|
| 乳脂肪分 | | | 861.456 | | 34.75 | 32.43 | 2.32 |
| 無脂乳固形分 | | | 544.291 | | 48.16 | 44.83 | 3.33 |
| 補給金 | | | 4.7219 | | 4.72 | 4.73 | -0.01 |
| 計画チーズ奨励金 | | | 1.8474 | | 1.85 | 1.79 | 0.06 |
| 乳質単価 | 生菌数 | ランク1 | 2 | 305,326,356.1kg | 3.75 | 3.74 | 0.01 |
| | | ランク2 | 0 | 6,047,815.5kg | | | |
| | | ランク3 | -3 | 76,520.4kg | | | |
| | 体細胞数 | ランク1 | 2 | 270,465,226.0kg | | | |
| | | ランク2 | 1 | 22,733,600.5kg | | | |
| | | ランク3 | -2 | 2,617,302.9kg | | | |
| 合計 | | | | | 93.23 | 87.52 | 5.71 |

12月分乳代支払単価

| 項目 | 単価(円)/(kg)% |
|-----------|-------------|
| 乳脂肪分① | 34円75銭 |
| 無脂乳固形分② | 48円16銭 |
| 補給金③ | 4円72銭 |
| チーズ奨励金④ | 1円85銭 |
| 脂肪率 | 全道 4.03% |
| | 農協 4.09% |
| 無脂固形分率 | 全道 8.85% |
| | 農協 8.79% |
| 成分乳価 | 全道 89円48銭 |
| ①+②+③+④=⑤ | 農協 89円62銭 |
| 乳質乳価 | 全道 3円75銭 |
| ⑥ | 農協 3円79銭 |
| 乳代合計 | 全道 93円23銭 |
| | 農協 93円41銭 |
| ⑤+⑥ | 差異 18銭 |

懐かしきあの頃… そして今。



懐かしいですね、各地域にそれぞれ集乳所があり、夏はリヤカーで、冬は馬籠で毎日運びこまれました



集乳所では集乳缶を滑らすように投げ入れたので、ぶつかってボコボコに

かったり、運ばれてきた生乳が凍らないように、検査をしてタンクに移さないといけないなど、冬場の運ばれてきた生乳の管理に苦労したと教えてくれました。



乳業メーカーに次々と運び込まれます

今月は各農家から集められた生乳が、クーラーステーションで受け入れられるまでの昔と現代の違いに注目したいと思います。

現在では、ミルクローリー車で1回に15t近い生乳がメーカーの工場に運ばれ、個々の酪農家の出荷量も昔と比べると、多いところで10倍近い生乳が出荷されておりますが、現在の様なバルククーラーが導入されたのは昭和49年と、それ以前では出荷する生乳をブリキ製の輸送缶に分けて、冷やして出荷しておりました。

各農家の前には輸送缶を置く台があり、毎日朝、お父さんが輸送缶をリヤカーで運び、学校帰りに洗浄された空の輸送缶をリヤカーで処理室まで運ぶのが子供達の仕事だったそうです。

当時は砂利道で、雨が降るとリヤカーのタイヤがぬかるみにはまったり、バランスを崩してリヤカーから輸送缶を落としてしまったりと、子供時代の大変な思い出の1つだったそうです。

クーラーステーションでの作業も重労働で、毎日運ばれてくる200本近い輸送缶(約30kg)を1缶1缶をアルコール検査・風味検査・異物検査などの検査を行い、合格した生乳を今度は1本1本手動でタンクに移し、空になった缶を洗浄といった手動作業が多く行われていたそうです。特に苦労したことを聞くと、冬の輸送缶の管理が大変で、輸送缶のフタが凍って空かなくなったり、運ばれてきた生乳が凍らないように、検査をしてタンクに移さないといけないなど、冬場の運ばれてきた生乳の管理に苦労したと教えてくれました。

編集後記

- ▼ 新年を迎え、あつという間に1月が過ぎました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。新年早々、季節はずれの雨が降り例年になく温かい正月となり、今年は春が来るのが早いかと思っていた矢先、流水がいつもの年より1週間早く接岸し、肌刺さるような冷たい風が吹き、道東にも本格的な冬の寒さの到来となりました。
- ▼ くみあい便りが届く頃には節分も終わり、暦の上では立春となりますが、道東に春が来るのはまだまだ先になりそうです。
- ▼ さて、今月号は豊原保育園のスケート教室を掲載しております。寒さに負けず元気に、慣れないスケート靴を履いて、お父さん、お母さんが連日、夜中までかかり一生懸命作ったスケートリンクを滑る保育園児を取材させていただきました。園児の多くが、スケート靴を履くのが今回で3回目とまだまだ滑れない子供達が多く、始めはペンギンの様なヨチヨチ歩きでリンク滑っていたかと思うと、1時間後には追いかけてくるまでに成長し、子供の吸収の速さに驚きました。
- ▼ 今月に入り吹雪で視界不良による路外に逸脱事故や、アイスバーンによるスリップ事故が多発しています。毎年このことはいえ細心の注意が事故の防止になります。いつもより家を少し早めに出ることを意識し、運転中は早めのブレーキなどを心がけましょう。